

令和5年度「水稻」病害虫雑草等防除暦

使用時期 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策	
種子消毒	浸種前	F:3+M 1	テクリードCフロアブル 水	100 ml 19.9 l	200 倍	-	種子伝染性病 害(ばか苗 病、 もみ枯細菌 病) いもち病・苗 立枯れ病	浸種前	1 回	※温湯消毒を実施していない種籾は必ず実施する。 200倍液に24時間浸漬する。 ・消毒後は水洗いせず、ただちに停滞水で浸種する。 ・浴比は乾籾1Kg:2ℓ(籾4kgに薬液8ℓ)とし、停滞水中で行う。 ・極端な低水温での浸種は、催芽や出芽が遅延、抑制される場合がある ので、必ず10℃以上(15℃~20℃が適温)の水で浸種してください。 ・廃液の処分方法に留意ください。(河川等へ流出しないように注意する)
	浸種前 ~ 催芽時	-	エコホープDJ 水	100 g 19.9 l	200 倍	200倍液 に24時間 浸漬する	種子伝染性病 害(ばか苗病、 もみ枯細菌病)	浸種前 ~ 催芽時	-	・消毒後は水洗いせず、 過度な風乾は避ける。 ・浴比は浸種前の場合乾籾1Kg:2ℓ(籾4kgに薬液8ℓ)、催芽時の場合 乾籾1kgに4ℓとし、停滞水中で行う。 ・薬液温度:10℃以下、30℃以上は避ける。 ・有効期限が短いので期限内に使用する。 ・薬液の反復使用はしない。
苗立枯病予防	は種前	F:32+4	タチガレエースM粉剤 育苗培土	6~8 g 5 l	-	-	苗立枯病 ムレ苗防止 根の生育促進	は種前	1 回	・粉剤は育苗箱土壌に均一に混和する。 土壌に混和する場合はなるべく、は種直前に行う。
		F:32+4	タチガレエースM液剤 水	100 ml 49.9~99.9	500~ 1,000 倍	育苗箱1箱当 り500ml(使用 土壌約5ℓ)		は種時 又は 発芽後	1 回	・苗立枯病・ムレ苗の防止、根の生育促進に効果がある。 ダコニールを含む薬剤(ダコニール1000、ダコレート水和剤)との併用は薬害 が発生する恐れがある。
苗箱施薬	は種時 (覆土前) ~ 移植当日	-	別紙登録農薬 苗箱施薬より選択	-	-	苗箱当り使 用量を確認	-	-	1 回	・移植前の苗に施薬することで、病害虫を予防する。 ・田植前に苗箱に均一に散布し、葉についた薬剤を払い落とし、苗床面 に落ち着く程度にジョロで散水する。
初期除草剤	植代後~ 移植7日前又 は 移植直後	-	別紙登録農薬 初期除草剤より選択	-	-	10a施用量を 確認する	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ他	-	1 回	・代掻後~移植前又は移植直後に使用し、早期発生雑草を抑える。 ・残効が短いため、初中期剤又は中期剤との体系で処理する。
初中期除草剤	移植後~ 雑草発生前	-	別紙登録農薬 初中期除草剤より選 択	-	-	10a施用量を 確認する	水田一年生雑草 ホタルイ・セリ クログワイ オモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	-	1 回	・移植直後~ノビエ葉齢に応じて早めに使用する。 ・雑草発生前の使用が効果的です。
中後期除草剤	移植後 14日目頃 ~雑草発生前	-	別紙登録農薬 中後期除草剤より選 択	-	-	10a施用量を 確認する	水田一年生雑草 ホタルイ・セリ クログワイ オモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	-	1 回	・薬剤により使用時期が異なるので注意する。

令和5年度 水稻農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】苗箱処理剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項	
							使用時期	使用回数		
苗箱施用	I:28	パディート箱粒剤	-	-	育苗箱 (使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	イネミスヅウムシ、イネドロ オウムシ、コフノメイガ、ニカ メイチュウ、フタオビコヤガ、 ツマグロコバイ、イネツムシ	は種時(覆土前)～ 移植当日	1回	・育苗箱の上から均一に散布。	
						ヒトビウソク	移植3日前～移植当日			
						イネヒメハモグリハエ、イナ ゴ類	移植当日			
	I:28+ F:P8	ブーンパディート 箱粒剤	-	-	育苗箱 (使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	いもち病、イネミスヅウ ムシ、イネドロオウムシ	は種前	1回		・育苗箱の床土又は覆土に均一に混和 する。
						いもち病、イネミスヅウ ムシ、イネドロオウムシ、苗 腐敗症(籾枯れ細菌 病)	は種時(覆土前)～ 移植当日			・育苗箱の上から均一に散布する。
						白葉枯病、もみ枯細 菌病、内穎褐変病、 穂枯れ(ごま葉枯病 菌)、イナゴ類、ヒトビウ ソク、イネヒメハモグリハエ、 コフノメイガ、ニカメイチュ ウ、フタオビコヤガ、ツマグ ロコバイ、イネツムシ	移植当日			・育苗箱の上から均一に散布する。
稲 (本田施用)	I:28+ F:P8	ブーンパディート 箱粒剤	-	-	1 kg	いもち病、イネミスヅウ ムシ、イネドロオウムシ	は種時	1回	・は種同時施薬機を用いて土中施用 する。	
							移植時		・側条施用。	

令和5年度「水稻」病害虫防除暦

散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
6月中旬～ 下旬 (イネ5葉期以降)	I:3A	なげこみトレボン	-	-	水溶性容器 6～10個 (300～500 mℓ)	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	21 日前まで	3 回以内	・イネドロオウムシ幼虫発生後の散布は効果が落ちる。 ・田植後20日以降でイネの5葉期以降に散布する。 ・湛水状態で水溶性容器のまま圃場全体に均等に投げ込む。 (散布後7日は落水、かけ流しをしない) 魚毒性が強いため注意する。
6月下旬 (発蛾最盛期10～ 15日後)	I:14	㊞ パダン粒剤4	-	-	3～4 Kg	ニカメイチュウ	30 日前まで	6 回以内	
移植後20日 以降	I:3A	なげこみトレボン	-	-	水溶性容器 6～10個 (300～500 mℓ)	イナゴ類	21 日前まで	3 回以内	・田植後20日以降でイネの5葉期以降に散布する。
7月上旬～ 下旬	I:3A	トレボン乳剤	50 mℓ	2,000 倍	100 ℓ		14 日前まで	3 回以内	・イネドロオウムシ、カメムシ類にも効果があります。
7月中旬～ 8月上旬	I:14	㊞ パダン粒剤4	-	-	3～4 Kg	イネツトムシ	30 日前まで	6 回以内	
	I:14	㊞ パダンSG水溶剤	66 g	1,500 倍	100 ℓ		21 日前まで	6 回以内	
7月中旬～ 8月上旬	I:1B	マラソン乳剤	50 mℓ	2,000 倍	100 ℓ	ツマグロヨコバイ ウンカ類	21 日前まで	5 回以内	・株元に届くように散布する。
8月上旬	I:4A	スタークル豆つぶ	-	-	250 g	カメムシ類・ウンカ 類・ツマグロヨコバイ	7 日前まで	3 回以内	・カメムシ類防除は出穂7日後に湛水状態にして散布する。
穂揃い期 (8月初旬 ～中旬)	I:4A	アルバリン粒剤	-	-	3 Kg	カメムシ類 ウンカ類	7 日前まで	3 回以内	・カメムシの発生が多い場合は、穂揃い期に散布する。 ・湛水状態(水深3～5cm)で散布し、4～5日は湛水を保つ。 ・7日間は、止め水とする。
葉いもち病 初発10日前 ～10日後	F:11	オリブライト250G	-	-	250 g	いもち病	45 日前まで	1 回	・7月中旬以降の散布で、穂いもちに対する残効が期待できる。出穂10日前までに散布する。 ・湛水状態(水深3～5cm)で散布し、4～5日は湛水を保つ。 ・7日間は、止め水とする。
	F:16.3	サンブラス粒剤	-	-	3～4 Kg		30 日前まで	1 回	・湛水状態(水深3～5cm)で散布し、4～5日は湛水を保つ。 ・7日間は止め水とする。 ・出穂5日前までに散布する。
いもち病 予防～初発期	F:U14 +16.1	ブラシンフロアブル	100 mℓ	1,000 倍	100 ℓ		7 日前まで	2 回以内	・病斑(葉いもち)を発見次第散布する。

令和5年度 水稻農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】育苗期 殺菌剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	FRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項
							使用時期	使用回数	
種子消毒	3+M1	テクリードC フロアブル	500 mℓ	200 倍	24時間種子浸漬	いもち病、褐条病、ごま葉枯病、苗立枯細菌病、苗立枯病(リゾープス菌・トリコデルマ菌)、ばか苗病、もみ枯細菌病	浸種前	1 回	・浸漬の場合は水温10℃以上(適温15～20℃)で行う。
			5,000 mℓ	20 倍	10分間種子浸漬				
			-	7.5 倍	30mℓを乾粃1kgに塗沫処理				
種子消毒	BM02	エコホープDJ	500 g	200 倍	24時間種子浸漬	いもち病、苗立枯病(リゾープス菌) 褐条病、苗立枯細菌病、ばか苗病、もみ枯細菌病	浸種前～催芽時	-	・水温が10℃以下にならないようにする。
					24～48時間種子浸漬		催芽時		
							浸種前～催芽前		
は種前	32+4	タチガレエースM 粉剤	-	-	育苗箱 (使用土壌約5ℓ) 1箱当り6～8g	苗立枯病(ヒシウム菌、フザリウム菌)、ムレ苗防止、根の生育促進	は種前	1 回	・育苗箱の床土または覆土に均一に混和。
は種前～ 発芽後	32+4	タチガレエースM 液剤	100～200 mℓ	500～ 1,000 倍	育苗箱 (使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	苗立枯病(ヒシウム菌、フザリウム菌)、ムレ苗防止、根の生育促進、移植時の活着促進	は種時又は発芽後	1 回	
			100 mℓ	1,000 倍	育苗箱 (使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ		は種時		
は種時～ 緑化期	1+M5	ダコレート水和剤	166～250 g	400～ 600 倍	育苗箱(使用土壌約5ℓ)1箱当り500mℓ	苗立枯病(リゾープス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌)	は種時から緑化期。 但しは種14日後まで	2 回以内	
発芽後	6	フジワン粒剤	-	-	育苗箱(使用土壌約5ℓ)1箱当り25～50g	根の伸長および発根促進、ムレ苗防止	苗の緑化開始	移植前は1回	・育苗箱中の苗の上から均一に散布。

令和5年度 水稻農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】本田殺虫剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	IRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項
							使用時期	使用回数	
本田	3	なげこみトレボン	-	-	水溶性容器 4~6個 (200~300ml)	イネミスゾウムシ、イネドロ オウムシ	収穫 21 日前まで	3 回以内	<ul style="list-style-type: none"> 田植後20日以降でイネの5葉期以降に散布。 なげこみトレボン、トレボン乳剤は合わせて総使用回数3回以内。 ㊦パダン粒剤4、㊦パダンSG水溶剤は合わせて総使用回数は6回以内。
					水溶性容器 6~10個 (300~500ml)	イナゴ類			
	3	トレボン乳剤	50 ml	2,000 倍	60~150 ℓ	ツマグロコハイ、ウナカ 類、イネドロオウムシ、イ ナゴ類、カメシ類、イネ ミスゾウムシ	収穫 14 日前まで	3 回以内	
	14	㊦ パダン粒剤4	-	-	3~4 Kg	ニカメイチュウ、イネツム シ、コブノメイガ、アザミ ウマ類、フタオビコヤガ	収穫 30 日前まで	6 回以内	
	14	㊦ パダンSG水溶剤	66 g	1,500 倍	60~150 ℓ	ニカメイチュウ、コブノメイ ガ、イネツムシ	収穫 21 日前まで	6 回以内	
	1	マラソン乳剤	50 ml	2,000 倍	60~150 ℓ	ウナカ類、ツマグロコハ イ	収穫 7 日前まで	5 回以内	
	4	アルバリン粒剤	-	-	3 Kg	ウナカ類、ツマグロコハ イ、ニカメイチュウ、イネ ドロオウムシ、カメシ類、 イネミスゾウムシ	収穫 7 日前まで	3 回以内	
4	スタークル豆つぶ	-	-	250 g	カメシ類、ウナカ類、ツ マグロコハイ	収穫 7 日前まで	3 回以内	<ul style="list-style-type: none"> アルバリン粒剤、スタークル豆つぶは 本田での合わせて総使用回数は3回 以内。 カメシ防除では出穂7日後に散布。 	

【農薬散布時期】本田殺菌剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2021.11.4現在)

散布時期	FRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項
							使用時期	使用回数	
本田	11	オリブライト250G	-	-	250 g	いもち病、紋枯病、 穂枯れ(ごま葉枯病 菌)	収穫 45 日前まで (出穂10日前まで)	1 回	<ul style="list-style-type: none"> 湛水し、水田に均一に散布。
	16.1+3	サンブラス粒剤	-	-	3 Kg	いもち病	収穫 30 日前まで (出穂5日前まで)	2 回以内	<ul style="list-style-type: none"> トロプロカルブ含有剤(パディート、サン ブラス)は移植前1回以内、本田では1回 以内。
	U14 +16.1+1	ブラシフロアブル	100 ml	1,000 倍	60~150 ℓ	いもち病、ごま葉枯 病、穂枯れ(ごま葉 枯病菌)、稲こうじ 病、内穎褐変病、墨 黒穂病	収穫 7 日前まで	2 回以内	

令和5年度 水稲農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】初期除草剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	HRAC コード	薬剤名	薬剤量	散布量 (10a当り)	対象雑草	農薬安全使用基準			注意事項
						使用時期	使用方法	使用回数	
移植水稲 (初期)	14	メテオフロアブル	500 ml	500 ml	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、クログワイ	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内	
						移植後～移植前7日 または移植直後～ ノビエ1葉期、 但し移植後30日まで	原液湛水散布又 は、水口施用		
	5+0+1 5	農将軍フロアブル	500 ml	500 ml	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
						移植後～移植7日前 または移植直後～ ノビエ1.5葉期、 但し、移植後30日まで	原液湛水散布		
15	エリジャン乳剤	300 ml	300 ml	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布	1回		
					移植後～移植7日前まで				
15+0	アークエース粒剤	3 Kg	3 Kg	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	移植直後～ ノビエ1.5葉期まで、 但し移植後30日まで	湛水散布	1回	・砂壤土では移植後3日～ ノビエ1.5葉期まで、但し移植 後30日までの使用とする。 モゲトンと併用する際は、総 使用回数に注意する。 (ACN=3回以内)	

令和5年度 水稻農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】初中期除草剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	HRAC コード	薬剤名	薬剤量	散布量 (10a当り)	対象雑草	農薬安全使用基準			注意事項
						使用時期	使用方法	使用回数	
移植水稻 (初中期)	2+2+1 5+27	アピログロウMX 1キロ粒剤	1 Kg	1 Kg	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植直後～ノビエ3.0葉期まで、但し移植後30日まで	田植同時散布機で施用 湛水散布	1 回	
	14+2 +27	エンペラーフロアブル	500 ml	500 ml	一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、エゾノサヤスカガサ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植直後～ノビエ3.0葉期、但し、移植後30日まで	田植同時散布機で施用 原液湛水散布又は水口施用	1 回	
	14+2 +27	エンペラージャンボ	小包装 (パック)10個 (250g)	250 g	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ3.0葉期まで、但し移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	1 回	・小包装(パック)10個(250g)
	33+27 +15	ジェイソウル フロアブル	500 ml	500 ml	一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミスガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、エゾノサヤスカガサ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植直後～ノビエ2.5葉期まで、但し移植後30日まで	田植同時散布機で施用 原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1 回	
	33+27 +15	ジェイソウルジャンボ	小包装 (パック)10個 (450g)	450 g	一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミスガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、エゾノサヤスカガサ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後1日～ノビエ2.5葉期まで、但し植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	1 回	・小包装(パック)10個(450g)
	0+27+ 2+0	シンズイズフロアブル	500 ml	500 ml	ウリカワ、エゾノサヤスカガサ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツハイ、ミスガヤツリ、一年生雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ノビエ4葉期、但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1 回	
	0+27+ 2+0	シンズイズジャンボ	小包装 (パック)10個 (250g)	250 g	一年生雑草及び多年生広葉雑草	移植後3日～ノビエ3.5葉期、但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	1 回	・小包装(パック)10個(250g)
	5+27 +15+0	クサトツタ粒剤	3 kg	3 Kg	一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ2.5葉期まで、但し移植後30日まで 移植時	湛水散布 田植え同時散布機で施用	1 回	

令和5年度 水稻農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】中後期除草剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	HRACコード	薬剤名	薬剤量	散布量 (10a当り)	対象雑草	農薬安全使用基準			注意事項
						使用時期	使用方法	使用回数	
移植水稻 (中後期)	5+0 +27+2	レブラス1キロ粒剤	1 Kg	1 Kg	水田一年生雑草、マツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ	移植後14日～ノビエ4葉期まで、但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	・レブラス1キロ粒剤、レブラスジャンボの使用回数は、いずれか1剤1回。
	5+0 +27+2	レブラスジャンボ	小包装 (パック)10個 (400g)	400 g	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草		水田に小包装(パック)のまま投げ入れる		
	6	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	3 Kg	3～4 Kg	水田一年生雑草(イネ科を除く)、ウリカワ、エゾノサヤスカグサ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツハイ、ミスガヤツリ	移植後15～55日まで、但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	
	1	トドメMF1キロ粒剤	1 Kg	1 kg	ノビエ	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで、但し収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内	
	6+1	トドメバスMF液剤	500 ml	1000 (散布液量 ml 70～1000)	一年生および多年生雑草	移植後15日～ノビエ6.0葉期まで、但し移植後50日まで	落水散布又は、ごく浅く湛水して散布	2回以内	・トドメMF乳剤を含めた総使用回数は、2回以内。
ウキクサ類 藻類による 表層はく離	0	モゲトン粒剤	3 Kg	2～3 Kg	ウキクサ類、藻類(アオシロ、アミシロ)	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期、但し、収穫45日前まで	湛水散布	3回以内	・アークエース粒剤、モゲトン粒剤、モゲトンジャンボは合わせて総使用回数3回以内。(ACN=3回以内)
	0			1～2 Kg	藻類による表層はく離				
	0	モゲトンジャンボ	20個(1 Kg)	20個(1 Kg)	ウキクサ類、アオシロ・藻類による表層剥離	ウキクサ類、アオシロ・藻類による表層はく離の発生時、但し収穫45日前まで	水田に投げ入れる		
クサネム 対策	2	ノミニー液剤	100 ml	50～100 ml 水100 l	イボクサ、クサネム	移植後30日～クサネムの草丈40cm・イボクサ茎長30cmまで但し、収穫60日前まで	落水散布又は、ごく浅く湛水して散布	1回	